

# 第一回根室市創生有識者会議議事録（概要）

日時 平成 27 年 5 月 25 日（月）午後 4 時 00 分  
場所 根室市総合文化会館 2 階特別会議室

## 1. 開会

（事務局）開会

## 2. 市長挨拶

根室市では、現在、人口ビジョン・総合戦略策定として、今後 5 年間の施策の基本的方向・具体的な施策をまとめた根室市創生総合戦略を策定し、自立した地域社会の実現をめざすべく現在その作業に取り掛かっております。

地方創生を実行するうえでは、市民関係団体や民間企業者等の参加・協力が重要であります。総合戦略等の策定にあたっては市が主体性を持ちつつも市民団体や産業経済界、金融機関、労働団体、等々、更には大学等の多様な知見と資源を結集し、根室市人口ビジョン並びに根室市創生総合戦略の原案等を審議いただくとともに地方創生に関連する個別案件につきましてもご助言いただくなど皆様のご意見を反映したいと考えております。

まち・ひと・しごとの創生総合戦略の基本的な考え方にありますとおり人口減少と地域経済縮小の克服、「まち・ひと・しごと創生」の好循環の確立の実現に向けた取り組みはもちろん、住んでみたい、住み続けたいと思われる根室を創り、未来の子供たちにその活動を引き継いでいくことが私たち大人の責務と考えます。

委員の皆様には、当市の地方創生が未来の子供たちに誇れるものとなるようお力添えを頂くことをお願い申し上げまして開会にあたっての私からの挨拶とさせていただきます。

## 3. 委員紹介

（事務局）各委員の紹介

## 4. 人口ビジョン・総合戦略の策定に関する基本方針について

（事務局：川崎） 人口ビジョン・総合戦略の策定に関する基本方針、本会義の役割と体制についての説明

## 5. 議事

（1）討議事項

①根室市人口ビジョン(第 1 章～第 4 章)

（事務局：小坂） 資料「根室市人口ビジョン(案)」の第 1 章～第 4 章の説明

（質問 石井委員）

・ 14P の転出入のところの年齢階層の図だが、大学進学者というのは住民票を移していないという傾向が非常に多いといわれていることから、20～24 歳人口のところや、転出

者についても18歳人口が出ていくという実態になっていると思うので、この図とは違う動きになっているのではないかと思います。

- ・実人口は、5歳刻みではあるが国調ベースの人口をみる必要がある。国調は基本的には居る人の人口なので、この辺の動きはフォローできると思う。

#### **(事務局)**

- ・まず国調でしっかりみていきたい。
- ・それに加えてこの後、21総研の力も借りて高校等での進路調査も実施するので、最終的に落とし込んでいきたいと思う。

### **②根室市人口ビジョン(第5章～第7章)**

(事務局) 資料「根室市人口ビジョン(案)」の第5章～7章の説明

#### **(質問 石井委員)**

- ・第6章の産業構造についてだが、今回のテーマは人口問題なので、雇用の状況をしっかりみないといけないと思う。
- ・産業構造の問題と雇用構造の問題は必ずしも一緒ではない。漁業や製造業では労働生産でみると強くなっているが、就業者数は減少しているということもあるので、それをちゃんと評価しないといけない。
- ・また、三次産業、特に医療福祉のような分野が明らかにどこの地域でも主要な雇用増に繋がっている部分がある。雇用の方の現状をきちんと押さえて分析した方がいい。

#### **(質問 本間委員)**

- ・根室の最近の傾向として息子さん娘さんが札幌等に出ていった後、退職後の老後に一家がごそと転出するという状況が顕著な気がする。特に、ここ3～5年くらい相当多くなっている気がするのでこうした実態を把握する必要がある。
- ・こういう傾向に歯止めをかけないといくら出産率が増えたとしても、減る方が相当多いという感じを持っており、資料の将来の人口推移も妥当な推計とは思いますが、もしかしたらもっと厳しい見方もあるのではないかととも思う。

#### **(質問 関委員)**

- ・7章のところの将来傾向ではこれから色々な調査をしていくと思うが、実際に市外に行ってしまう人に対して色々な反応なりその理由などを聞くという調査も行うのか。そういう調査は非常に大事だと思う。

#### **(事務局)**

- ・実際に根室市を転出してから3年経過した人に調査をする。
- ・逆に他の所から根室市に来られた方につきましても調査をします。
- ・また、先ほどの意見で、退職後の老後をお子さんの所に転出する方々の実態を把握する必要があるとのことでしたが、そのような観点で対象年齢も再度検討する。

## 〈意見交換〉

### (石井委員)

- ・北海道における人口減少は、相当以前から問題になっていたことであるが、なぜ、今、改めて人口問題が取り上げられてきているのか知っておく必要がある。ひと・まち・しごと創生法では、丁寧に説明しているようで説明していないため、なぜ今改めて人口問題かということが十分に理解されていない。
- ・今の人口の問題は、これまでの動きから少し変化がみられている。それは、日本全体で大学進学率が急増し、特に、女性の東京の大学への集中率がここ10年、急速に高まってきており、地方では男性よりも女性の方が急速に減少してきているという点である。
- ・少子化時代の大学の生き残り戦略として、都会のキャンパスを強化して学生を集めていることも要因であり、手を変えた東京一極集中が起こっている。
- ・この結果、地方には若年男性が増え、結婚できない男性が増えている。しかも、東京や札幌のような都会は、出生率が低い地域であり、その低い地域に女性が吸収されているというのが、出生率が低下している要因にもなっている。
- ・このため、全体の構造を変えるためには一極集中に対する対策が必要ではあるが、地方でも現状をきちんと見据えて、特に若い女性にどう残ってもらうかということのを改めて考えていく必要があり、最近の人口問題を考える上で若い女性に着目するという論点は以上のようなところにある。
- ・自分達の問題として考えてみると例えば跡取りというのは男だとみんな決めている。このため、どこの地域でも男性は20代、30代、40代ぐらいで戻ってくるが、女性が戻ってくることは全くない。
- ・根室でも、漁業は男性にシフトした就業構造であるし、公務員も男性社会である。そういう当たり前と思っている仕組みが、更に女性が戻って来づらい環境をつくっていることになり、まさに若い女性がいなくなって未来感が危ういという姿になっているのが現状である。
- ・若い女性が戻って来れる仕事を創るとというのが、まず、今回の議論のスタートラインであり、全国で一斉に総合戦略づくりをはじめているが、このポイントにいち早く気が付き、対策を講じるどころが生き残っていくものとする。
- ・根室も是非、そういう方向で進めていってもらいたい。

### (関委員)

- ・まず、若い女性に着目して根室の漁業をみると、やはり男社会である。
- ・漁業は女の人が陸上で作業をしていて、それがないとお金にならないし成り立たない産業であるが、これまでこの女性の労働という部分があり知られていない。しかも、旦那さんが漁師だからという側面があり、独身の若い女性にとって漁業を職業として意識されていないという現状がある。
- ・日本全体でも漁業就業者数の減少は問題となっており、漁師が減って組合が成り立たないという所もある。ところが、そういう所で漁師を募集すると女の人が混じって手を挙げてくる。

- ・もちろん、漁場の場所や漁法とか漁業の種類とかで制限が当然つくので、どこでもそれができるわけではないが、女性が自分の職業として漁業を選んで正組合員となっているところもあるというのが事実である。
- ・ただし、それは受け入れる側の意識が変化しないと無理であり、漁業だけには限らず地域や男性の人たちの意識の変革が不可欠である。
- ・もう一つは、漁業は生涯現役の職業であり、自分の体が動くうちはそこで働いている。そうすると70歳代でも現役の漁師が普通にいる。人口の年齢区分において65歳というのを老人として扱ことは、雇用実態と乖離していくのではないかと感じる。

### (辻委員)

- ・一つ目は、例えば、70歳代の人で子供がすでに出て行って市内にいない人が、最初は定年退職を迎えた後でも根室が好きだから残りたいという話を聞くが、5年、10年すると身体の問題や介護の問題などで子どもの住む都会に転出するという場合が多い。
- ・金融構造でみると、金融資産を多く持っている高齢者が流出をすることになるため、統計的な人の転出、転入の数値の減り方よりももっと減っているというのが実感だ。
- ・二つ目は、子育てをしている娘を見ていると子供二人は無理だと感じる。経済的理由ではなくサポートする体制がないためであり、今は1人で精一杯である。そのような状況では復職するとか、新たな職場に就職することはかなりハードルが高いことだと感じている。
- ・また、私の二番目の子は男であるが、初めから根室を出て、一切帰ってこないと断言している。それはどうしてなのか、根室をふるさとと思わないのか。地域の零細企業の経営者の方も同じように思っているのではないかと思う。根室市にとって非常に難しい問題であると感じている。

### (濱松委員)

- ・漁業の後継者問題に関しては、相続税に課題がある。税法上難しい課題ではあるが、親の代の負債を子供がそれを引き継ぐ場合に、漁船だとか、漁具等に関する負債が相続税の対象にならないようにできないか。新規参入を促進することも必要だが、後継者がいるのに、引き継げないという現状を打破できないものか。
- ・女性が漁業に就労することには賛成だが漁船漁業はなかなか難しい。沿岸漁業のように単独あるいは親子でできる漁業の場合に限られてしまうと思う。
- ・漁業というのは1年中獲れるものでない。その中で一定数の漁業者数を維持していくためには、その数を維持できるだけの生産額と、漁業者の仕事別に適正数を振り分けるようなことを考えることが重要。外国の職人制度（ドイツのマイスター制度）のようにそれぞれの仕事に対して親子代々生涯にわたって社会的・経済的地位を国が補償するというようなことを考えることが必要である。

### (佐藤委員)

- ・農業の立場からは、人口問題を後継者問題として位置づけている。
- ・根室の中でも、就農者が減っている地区もあり、増えている地区もある。増えている地区では、Uターンをして戻ってこられる方、新規に就農する方がいて、それらの方々が

結婚されて人口が増えているということがある。例えば、夫婦で3年なり5年、いろいろなところで勉強された方が、子供とともに、中には親子三代で移住してきたというようなことも事実あった。

- ・また、農業委員会ではファーム in 根室ということで、「都市女性とのふれあい事業」を実施している。大阪・沖縄・名古屋・東京に農家の子弟の方が直接嫁さん探しに地方に出て行って交流会を開催するというもの。今年は少なくとも3組くらいは結婚につながるという状況である。
- ・農協では、独自で宿舎を市内に2か所持っており、酪農スタッフを募集し、現在では16名の方をそれぞれ農家に派遣をしている。その結果、女性だと地元で結婚したり、さらには新規就農ができるということにも繋がっている。全国にこうしたネットワークがあるので、そのネットワークを活用しながら、後継者対策に取り組んでいる。
- ・一次産業という労働のきつい仕事ではあるが、都会から来た女性も子供を育てながら、それなりに田舎暮らしを楽しんでいるようである。

### (杉木委員)

- ・資料の中に自然増加率の1位が中標津、2位が別海、5位が根室という表がある。別海町と中標津町は産婦人科の産科の先生がいて分娩ができる環境にあるが、根室市は産科の先生がいないため分娩ができないという状況にある。なんとか産科の先生を確保して、安心してお子さんを生める環境にしていかなければならないと感じた。
- ・また、高齢者では健康不安、医療の充実した場所、介護の充実した場所を求めて都会に転出する方も非常に多い。市立病院も新しくなったが、泌尿器科、耳鼻科など常勤医のいない科目があることから、常勤医を確保し、医療の充実を図ることが重要である。
- ・一方、医療は医師だけではなく看護師、薬剤師、技師などのマンパワーが必要であるが、この地域はマンパワーが少ないため、なんとか医療収入を確保し、病院経営していただくだけでも精一杯という状況にある。
- ・しかも、医療現場で働いている人は40代、50代が中心で、若い世代の方が非常に少なく、次の世代の医療を担う人たちがいないという問題を抱えており、今後は、今以上に病院経営、救急医療対峙を確保していくことが難しくなる。
- ・若い世代にもっと医療の方を向いてもらう方策や、教育水準を高める、医療の専門学校にいけるような雰囲気づくりを市全体で創って行って、将来的な市民の健康を確保していくことが大事である。

### (菱島委員)

- ・高校や中学では学校の再編問題など、減少した人口にどう対応していくかが重要課題である。充実した教育をするためには一定規模の人数が必要なところがあり、その規模を整えていくということで再編が進められている。
- ・その中で、地域による格差を生まないように、様々なシステムを活用しながら、教員の研修を実施し教育力を高め、教育水準を高めていくという取り組みを行っている。
- ・しかし、一方では、さきほど、女性が都会へ行く、女子大生の数が増えているという話があったが、教育水準を高めれば高めるほど、逆に、都会を指向し、根室を出て行く子供たちを育ててしまっているという現状もある。

- ・とはいっても学力向上をしないと、進学を抑制するというにはならないため、学校教育の中で、地域の良さを学ばせる、地域産業、将来を担うような意識をつけさせるという教育と、グローバルな視点をもたせるという教育の2つをうまく取り入れながらやっていくことが必要と考えている。

### (岡野委員)

- ・人口減少というのは、本当はどの業界も大変で、根室の危機だという思いをもっている。
- ・現在、路線バス、貸し切りバスを運行しているが、今の乗務員の平均年齢が50歳、これから5年以内には7人くらいが退職してしまう。ここ何年か従業員を募集しているが年に1人、良くて2人とかしか集まらない。女性も募集しているが2年前に1人ようやく入っただけで、なかなか集まらないという状態である。
- ・このため、根室市内の路線バス運営では、赤字云々というより人材不足で路線を維持できなくなるという危惧をもっている。人口減少についてはしっかりと皆さんと対策を練ってやっていきたいと思っている。

### (廣田委員)

- ・1977年に国連海洋法会議で200海里が設定されてからは、漁業では大幅な減船ということになり、経済的に大打撃を被ったが、ロシアに漁業協力費を払いながら、現在まで漁業は続いてきた。我々水産加工もそれによって成り立ってきた。
- ・その間に漁業者が減れば、水産加工場で働くという奥さんたちもだいぶ減ってきたし、かつ、年々高齢化してきている。
- ・私ども水産加工業を支えてくれている女性たちは80~90人くらいいるが、60代の人たちがほとんどになって、30代、40代は数えるほどしかない。70代の人も頑張っているということで、経済の疲弊と共に人口問題も大きく変わってきたと思っている。
- ・昨年の暮れ頃からロシアの日本に対する漁業政策が劇的に変わりつつある。今までよりもさらに厳しくなりつつある。根室経済の基盤が今までよりもさらに厳しくなるとすると、人口推計の前提が変わり、我々が予想もつかないような大きな変化が考えられるのではないかという、悲観的な考えをもっている。

### (本間委員)

- ・根室の女性人口を考える場合には、出さないことなのか、戻ってこさせるのかの二つをどう考えるかということである。それをどうするかというのは、次回以降のテーマになると思うが、一つのアイデアがある。
- ・根室の隣の北方四島は根室よりも時差が2時間早い。ということは2時間早く働き始めても大丈夫と考えると、たとえば根室時差というのを創ってはどうか。
- ・ここは日の出が早いので、2時間どころか3時間でも4時間でも先回りできる。ということはある意味で1日がダブルヘッターで使える。
- ・以前にニュージーランドに行ったときに、フレキシブルで働いている人が多く3時か2時くらいに仕事を終えて、泳ぎに行ったりとかヨットに乗ったりとか遊んでいる人が多く、あるいはそういう自分のビジネス、主たる職業だけではなく鹿を飼うなどのサブビジネスに時間を使っている人もいた。

- ・そういう働き方をみると、ここ独自の働き方で女性を引き付けるということもあるかと思う。例えば最近、女性の釣りがすごく流行っているので、女性に釣りの楽しさを味わってもらえる（サブビジネスとしての釣りガイドなど）地域としての受け皿になれないか考える。
- ・どういうふうにしたら根室の人口が分娩・お産によって何とかなるかを考えるより、根室の魅力づくりというものをもっとやっていったらいいのではないかと思う。

## 6. その他

第2回有識者会議は6月下旬を予定  
日程が決定次第連絡